

令和5年度 みーる平針 事業報告

1 事業概要

障害者総合支援法のもと、利用者に対し生産活動及びその他の活動の機会を提供することにより、利用者が自立した日常生活や社会生活を営むことができるような支援を目指した。生産活動においては、新たな柱とした解体作業を主軸とした。取引先との連携を強化し、作業の提供方法も随時見直しを行ったことで一年間、安定して活動することができた。また、新型コロナウイルス感染症への対応は、社会情勢に合わせて「感染対策指針」や「業務継続計画」を改正し、昨年度よりも緩和した対策を講じた。より良い支援を目指した権利擁護の取り組みは継続し、利用者が安心・安全に通い続けられることを目標に施設運営を行った。

2 事業所運営

(1) 施設整備

令和5年度は主だった施設整備を実施しなかったが、夏季にエアコンの故障があり、修理の対応をした。

(2) 職員構成

() 内は、非常勤職員の外数

管理者 ※1	サービス 管理責任者	目標工賃 達成指導員	職業指導員	生活支援員	事務員※2	計
(1)	1	1	1 (3)	1	(1)	4 (5)

※1 はあと平針の管理者と兼務 ※2 本部の事務員と兼務

(3) 会議

会議名	内 容	時 期	構 成
法人運営会議	各事業所の情報共有と法人の運営課題についての議論を目的とした会議を行った。	毎月1回	理事長 常務理事 各管理者
職員会議	作業面・生活面の支援、事業所の運営全般について連絡協議した。	毎月1回	全職員
ケース会議	利用者の支援上の諸課題（緊急対応）等に対する検討を行った。	随時	各担当職員
	全利用者を対象に、個々の支援目標の検討及びまとめ、就労評価を行った。	9月・2月	全職員

虐待防止及び 身体拘束等適正化 検討委員会	虐待の防止、支援力の向上を目的として、 本委員会の規程及び方向性を確認し、 事業所の課題を共有するとともに、セルフ チェックも実施した。	6月	管理者ほか 委員2名
(虐待防止及び 身体拘束等適正化 研修)	意思決定支援の定義や根拠などをもとに、 事業所内での支援を振り返って、より良い 支援を考える機会とした。	9月	全職員
ハラスメント 防止委員会	ハラスメント防止とその適切な対応を 図ることを目的に、本委員会や法人規程等 を確認し、事業所の課題を共有した。また、 セルフチェックも実施した。	10月	管理者ほか 委員2名
感染対策会議	新型コロナを念頭に置き、国の方針を確認 しながら、事業所の感染症対策や業務継続 計画(BCP)の見直しなどを協議した。	5月 11月	全職員
感染対策研修・訓 練	新型コロナとインフルエンザを念頭に 置き、事業所内感染が発生した場合を 想定した各対応をシミュレートし、有事に 備えた。	5月 11月	全職員

(4) 職員研修

月	研修名	場所	参加職員
7月	家族支援研修 サービス管理責任者更新研修	オンライン オンライン	サービス管理責任者 職業指導員
8月	人材育成研修	オンライン	サービス管理責任者
10月	会計基礎研修	オンライン	管理者
11月	人権倫理研修 就労支援研修	オンライン 北区	職業指導員 目標工賃達成指導員
12月	予算・決算対策研修	オンライン	管理者
1月	コミュニケーション研修 防災研修	オンライン 北区	生活支援員 目標工賃達成指導員

(5) 年間計画

月	行事	行事内容	防災計画
4月	花見(3月開催)	開花状況の都合で前倒して 実施した。コロナ禍前と同様の 形態に戻り、徒歩で細口池公園 へ出掛け、満開の桜を楽しみ ながら花見団子をいただいた。	消防用設備点検

5月	小グループ体験活動	昼食を兼ねての半日行事として実施した。6班に分かれ「ヒルズウォーク」「プライムツリー」などへ行って食事や買物を楽しんだ。	
6月			避難訓練（火災）
7月			消防設備自主点検
8月			
9月			情報伝達訓練、防災対策会議
10月			消防用設備点検 建物自主点検 避難訓練（地震）
11月	日帰りバス旅行	三重県「鈴鹿サーキット」へ観光バスで出かけた。雨ではあったが、さほど強くなかったこともあり、殆ど貸し切り状態のアトラクション等を皆で楽しんだ。	
12月	仕事納め昼食会	選択制にしたメニューのなかから好きなピザを注文し、皆で1年を労い、食事を楽しんだ。	避難訓練（火災）
1月	初詣	歩いて20分ほどの距離にある「熊野社」に全員で出かけた。利用者の健康とみえる平針の発展を祈願した。	消防用設備自主点検
2月			避難訓練（地震）
3月			防災対策会議

(6) 健康管理

利用者の健康保持を目的に、体重測定を毎月行った。また、個々人の基礎疾患や健康課題、配慮事項について、情報交換の機会を保護者と積極的に持つようにした。これらにより、事業所内において、より安全かつ健康に配慮した支援をすることができた。

加えて、年度末には毎月の体重測定結果を基に、体格指数（BMI）を算出したグラフを各利用者に配布し、ご家庭での健康管理に役立てていただけるようにした。

3 支援概要

利用者の人権と個性を尊重し、それぞれの障害程度や特性に応じた支援を行うことで、地域社会における社会的自立を目指した。また、利用者のニーズに基づく個別支援計画を作成し、職業指導・生活支援という事業所のもつ支援機能を積極的に活用した。

職業指導においては、利用者個々の就労・作業適性について、それぞれの持つ能力や強み、支援が必要な領域について客観的な評価を行った。支援目標を達成するために作業

指導を展開し、各利用者が主体的かつ積極的に参加することでやりがいを持てるようにした。活動を通して、就労を続けるうえで必要な社会性の維持・向上も目指した。

生活支援においては、活動のなかで個々の持つADL（日常生活動作）の維持・向上を目指した。また、心身の状況に応じた支援と並行し、利用者同士の心地よい関わり合いが持てるように働きかけ、一人ひとりが楽しく、より落ち着いた状態で過ごせるように工夫した。なお、新型コロナに対する感染予防対策は社会情勢に合わせて徐々に変化させ、安心安全と社会の変化の双方に配慮しながら対応にあたった。

(日課)

8:30 ～ 8:40	9:00 ～ 9:05	9:05 ～ 12:00 (10:20～10:30)	12:00 ～ 13:00	13:00 ～ 15:30 (14:20～14:30)	15:30 ～ 16:00
職員朝礼	朝礼	作業(休憩)	昼食休憩	作業(休憩)	清掃 終礼

※作業休憩は()内の時間帯にとった。

※今年度はコロナ禍後初めて一年間通して作業が不足することなく活動できた。

なお、感染防止対策として、昼食は時間差の対応を継続とした。

4 作業活動

「株式会社ルーツ」「エフワイ成型株式会社」を主な取引先として作業を展開した。自主製品として「ゴミ袋セット」の販売、自動販売機での「飲料」の販売も行った。

「株式会社ルーツ」との取引において、令和4年度は遊技機等の解体が主であったが、令和5年度は先方の意向により、電気メーターの解体が主となった。電動ドライバーを含め各工具の適切な扱い方への支援や、各利用者に適した工程を提供することで、効率良く作業が進められるよう注力し、受注と売上の拡大を図った。

「エフワイ成型株式会社」との取引も安定していた。定期的にガス部品組付けなどの作業を提供することができ、解体作業に続く作業として展開することができた。

「ゴミ袋セット」の販売では定期的な受注がなかったものの、令和5年度も天白区役所経由による受注が得られた。「飲料販売」は季節によって売り上げの差があるものの、作業の提供機会は安定していた。

作業を展開するにあたって、事故や危険性に対する対策を都度検討し、作業への安全性に配慮した。また、工賃の向上を図るため、取引先との受注調整や営業活動を行った。

作業	内容	取引先
解体作業	電気メーター等の解体、分別	株式会社ルーツ
ガス器具作業	部品の組み付け、検品	エフワイ成型株式会社
飲料販売	自動販売機での飲料販売、在庫管理、補充	地域住民など
ゴミ袋セット販売	各種ゴミ袋をパッケージした粗品作り	天白区役所など

5 平均工賃

14,225 円／月（前年度：13,472 円）… 最高：17,647 円／月、最低：7,385 円／月

6 その他

(1) 体験実習、施設見学など

(延人数)

夏期ボランティア	高校生（中部善意銀行）	11 名
体験実習	天白特別支援学校高等部	1 名
施設見学（本人）	南特別支援学校高等部、天白特別支援学校高等部、在宅者	3 名
施設見学（保護者）	南特別支援学校高等部、天白特別支援学校高等部、在宅者	3 名
施設見学（その他）	指定居宅介護支援事業所ケアマネージャー	1 名

(2) 広報活動

法人ホームページ、事業所紹介パンフレット及び事業所外掲示板の活用や季刊誌の発行を通じて、地域社会に広く当事業所の活動を伝えられるようにした。また、今年度は、X（旧ツイッター）による情報発信にも取り組んだ。

7 利用者状況

(1) 入退所（定員 20 名）

(月末時点の人数)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利用者数	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
利用実績	20.4	20.9	21.3	20.6	18.6	20.1	20.5	20.0	19.7	18.8	20.0	19.3

※ 利用実績の年間平均出席人数は、20.0 名 ※ 開所日数：242 日、利用率：91.0%

※ 利用実績、年間平均出席人数及び利用率は小数点第 2 位以下切り上げ

(2) 年齢別

(令和 6 年 3 月 31 日 現在)

性別 \ 年齢	～20	21～ 25	26～ 30	31～ 35	36～ 40	41～ 45	46～ 50	51～	計	平均年齢
	男性	0	2	0	1	3	1	2		
女性	0	0	1	2	2	1	2	3	11	43.3
計	0	2	1	3	5	2	4	5	22	41.8

※ 最高年齢は 58 歳（女性）、最低年齢は 23 歳（男性）

(3) 障害別

(令和 6 年 3 月 31 日 現在)

障害 性別	知的障害	ダウン症	自閉症	てんかん
男性	11	1	7	3
女性	11	1	1	2
計	22	2	8	5

※ 22 名中、重複障害者は 13 名

(4) 通所期間別

(令和 6 年 3 月 31 日 現在)

期間 性別	1 年未満	1～3 年 未満	3～5 年 未満	5～7 年 未満	7～10 年 未満	10 年以上	計
男性	0	1	1	1	0	8	11
女性	0	0	0	0	2	9	11
計	0	1	1	1	2	17	22

※ 就労継続支援 B 型事業に移行する前の当法人事業所に在籍していた期間も含む。

※ 通所平均期間は 14.7 年、最長期間は 32 年（男性）である。

(5) 障害支援区分別

(令和 6 年 3 月 31 日 現在)

区分 性別	未判定	区分 3	区分 4	区分 5	計
男性	1	3	6	1	11
女性	0	5	5	1	11
計	1	8	11	2	22